

九〇〇号記念誌上展出品要項

書誌誌はいよいよ来年の二月号で記念すべき九〇〇号に達します。一般部は賛助出品、毛筆・硬筆昇試発表、漢字かな交じりの書・一字書掲載、学生部では特別昇級試験（毛筆部）発表、豪華な誌上展を企画しました。今回の記念展では、参加者が書きたい課題を選び、作品づくりに取り組めるようにいたしました。月例競書での成果の集大成となりますよう、一般会員、学生会員の皆様からの多くの力作を心よりお待ちしております。

《一般部》

一、同人・準同人・支部長・推薦

- ・ 賛助出品とし、出品者全員の作品を掲載します。
- ・ 作品サイズ 毛筆作品で半切以下縦横自由
- ・ 賛助出品料 同人・準同人 一〇、〇〇〇円
支部長 七、〇〇〇円
推薦 五、〇〇〇円

※推薦：漢字・随意・かな、いずれかの部門での合格者
一人一点のみ出品可

・ 申込締切 11月22日（金）

九月号に同封の「九〇〇号記念誌上展」賛助出品申込書に、氏名・資格・作品縦横サイズを記入の上、ご提出ください。

・ 出品締切 12月10日（火）

- ① 賛助出品作品
 - ② 「九〇〇号記念誌上展」賛助出品票（1作品に1枚）
 - ③ 九月号に同封の「九〇〇号記念誌上展 賛助出品取りまとめ表」に人数・金額・送金方法を記入する。
- 以上①②③をまとめて期日までに送付してください。

二、一般毛筆部・硬筆部の特別昇試とします。

- ・ 出品資格 毛筆部 準推薦〜八級
硬筆部 正教授〜八級

◎毛筆部推薦合格者で他部門が準推薦以下の方も受験可

・ 昇試参考課題は十一月号掲載（12月22日締切課題）

※硬筆部は秋季昇試・創作部門（11月22日締切）も実施します。
・ 出品規定 十一月号掲載の参考課題の他、過去の課題や自由課題での受験可（各部門ごとの文字数等の原則あり。通常の定期昇級試験に準ずる）。

〔例〕第一部漢字：条幅に漢詩十四字 第一部かな：条幅に短歌
・ 受験料 定期昇級試験受験料と同額

・ 申込書 十一月号に同封します。

・ 提出締切 12月20日（金）必着

・ 合格発表 令和七年二月号「九〇〇号記念誌上展
・ 特典 ①記念展として優秀作品に賞を授与します。
②毛筆部の師範以下、硬筆部の特選以下の受験者は一ランク以上昇格。

※毛筆部正教授以上、硬筆部師範格以上は優秀作のみ昇格。

☆賛助出品作品・条幅昇試作品（半切作品）

掛け軸への表装を承ります。ご希望の方は、作品提出時にお申込み下さい。昇級試験発表後にも承ります。（税込・送料実費）

上	一六、五〇〇円	一文字付丸表具・木製軸先・並布地
中	一三、一〇〇円	一文字廻し・木製軸先・中布地
並	一〇、〇〇〇円	一文字付筋廻し・陶器軸先・上布地

三、漢字かな交じりの書

資格に関係なくどなたでも出品できます。優秀作品掲載。

・課題 十一月号に活字で発表される参考課題掲載の他、自由に選んだ課題可。

・サイズ 半紙 縦横自由 ・出品料 五五〇円

四、一字書

資格に関係なくどなたでも出品できます。優秀作品掲載。

・課題 自由

・サイズ 半紙 縦横自由 ・出品料 四四〇円

五、誌代増頁分

一般会員のみ、増頁分として別途五〇〇円お納め願います。

六、授賞式は令和7年6月1日(日)に予定しています。

《学生部》

毛筆部の特別昇試とします。

※硬筆部は前月が昇級試験のため通常対応になります。特別昇試は行いません。

・出品資格

学生部在籍者(会員外登録者も含む)

毛筆漢字部・かな部、どちらか一般に編入していても出品可

②編入している場合、誌代は一般部価格で増頁分の

誌代負担有り

・募集作品

高校かな・中学かなも出品する場合は一人二点

他は一人一点

「最高」以下：半紙たて作品

参考課題は十一月号に掲載・過去の課題・自由課題も可

「最優秀」：書き初め作品

サイズ：半切1/4 自由課題(過去の課題可)

・受験料 定期昇級試験受験料と同額

書き初め・中学・高校生：各一、一〇〇円

小学生：八八〇円

・提出締切 12月20日(金)必着

・申込書 十一月号に同封します。

・特典 ①優秀者には賞状賞品を授与

②一ランク以上の昇段級有り

・発表 令和七年二月号

・増頁負担 学生部は負担なし

*十月締切は秋季学生毛筆部昇級試験、十一月締切は秋季硬筆部昇級試験を例年通り実施しますので三か月連続の昇級試験となります。ご負担をおかけしますが、特別な記念号ですので奮ってご参加ください。

*一月締切の書き初め展は中止します。

思い出の作品に是非雅印を!

高橋会長の工房をご紹介します。

赤坂篆刻工房

電話・FAX 〇四二一五一六一八五八一

パンフレットご希望の方は事務局までご連絡下さい。

一字書課題

(10月22日締切)

瞳

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付

太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

条幅随意参考

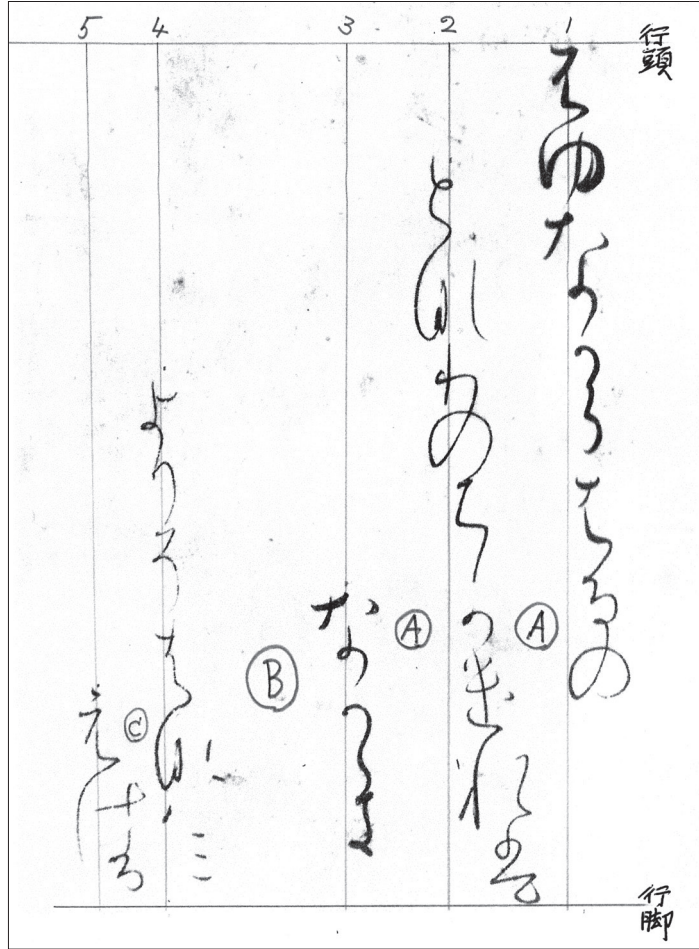
『不ゆな可ら 者るのと那利のち可遣れ盤 な可、支より曾 者那八三えける』
 (半紙臨書課題と同じ語句)

墨つぎを「不」と「な」の二ヶ所とし、墨量の位置が並ばないように工夫して二行に臨書する。落款は全体のまとまりを考え、二行目下、または左余白に「〇〇臨」と入れる。

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

半紙臨書課題

宮 絢子先生担当
 (10月22日締切) 出品料440円



升色紙 第七回 1、語句 不ゆな可ら 者るのと那利のち可遣れ盤 な可、支より曾 者那八三えける

2、形式 半紙をたてに使用。小筆で臨書し、左余白に全体のまとまりを考えて「〇〇臨」と入れる。

3、概観 升色紙の一回目から六回目までは、筆遣いや墨量の変化、連綿のやり方等、時間をかけて部分的に丁寧に臨書することに挑戦してきました。今回から「散らし書き」に入ります。「散らし書き」は、①行頭・行脚の高さ。②行間の広・狭。③墨の潤濁の変化。④各行の傾き。⑤線の濃淡・太さの変化。等々、さまざまなテクニクにより生まれます。そしてその技からは、プリントアウトやコピーしたような同じ作品が二葉と生まれませんが、「散らし書きのたのしみ」でもあります。

4、今回の「散らし書き」のポイント

①「行頭と行脚の高さの変化」を見る。

和歌の始まりの文字「不」を基準として、2・3・4・5行目の始まりの文字の高さを決める。2・4・5行目の行脚の高さはほぼそろっている。分かり易い「散らし方」である。

②一行ずつの傾きを見る。

行頭の文字の中心線を伸ばしていくと、行は右方向へ自然に傾いていることが分かる。

③行間の広狭を見る。

④墨つぎは二回にする。

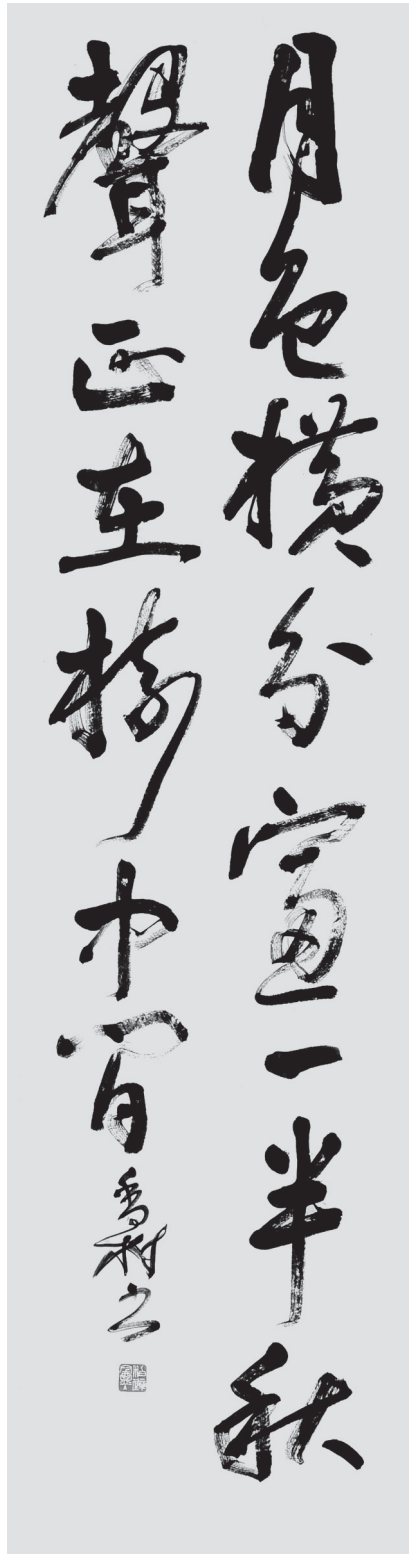
⑤「不」と「な」でのみ墨つぎをする。

※4行目の「者那八」は見えない部分があるが、予想して加筆してみたい。

筆してみたい。

A 高橋香樹会長書

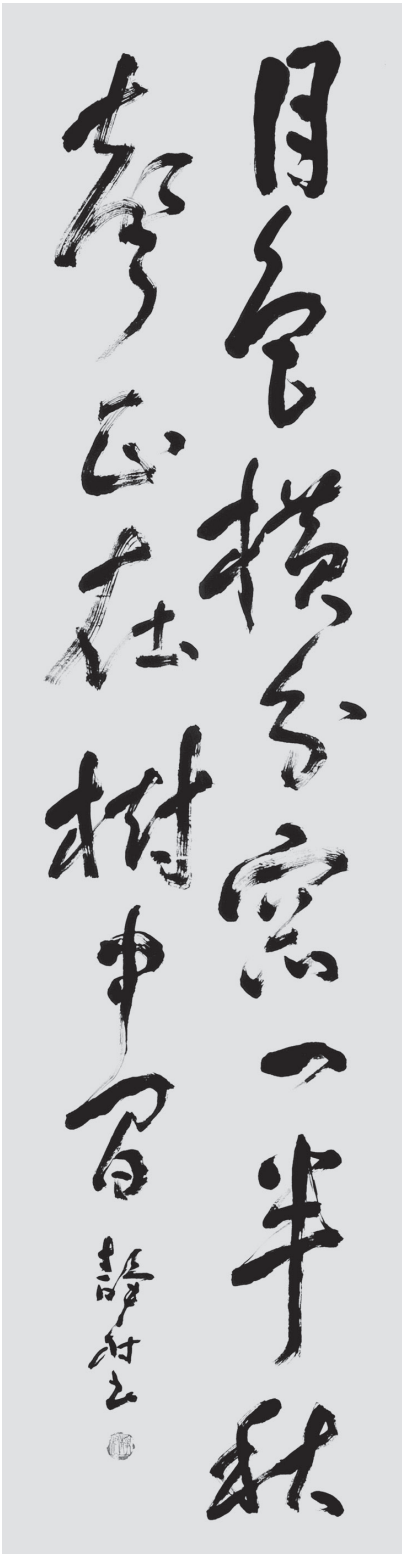
月色横分窓一半 秋聲正在樹中間 (陸游)
月色横分す窓の一半、秋声正に樹の中間に在り。



B

鈴木静村先生書

通常一・二行の配字は、(八・六)にすることが多いが、今回は、文中に「一」がある為、(九・五)にて書き始めてみた。しかし、一行九字めの「聲」が詰まった感じになる為、通常の(八・六)に変更。結果的には行草七字ずつとなった。墨継ぎは、小字の「一」と「正」。



月 点を右に寄せた形、空気が流れ明るい。色 点は最後に打つ。横分 草書で連綿。窓 点に変容を。一 墨継ぎ。半 タテ画で勝負、ビクビクしない。聲 草書体の典型。正、在 カスレ放しではなく、所々に墨の現われを。樹 墨継ぎ。末画の点は少々上方へ。中間 連綿線は強く、間に入る。

訳：月の影は横さまに窓の半分をてらし、秋の声はまさに樹木の間起こるのを聞いた。

予告 (十一月二十二日締切)

阮籍醒時少

陶潜醉日多

百年何足度

乘興且長歌 (王績)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

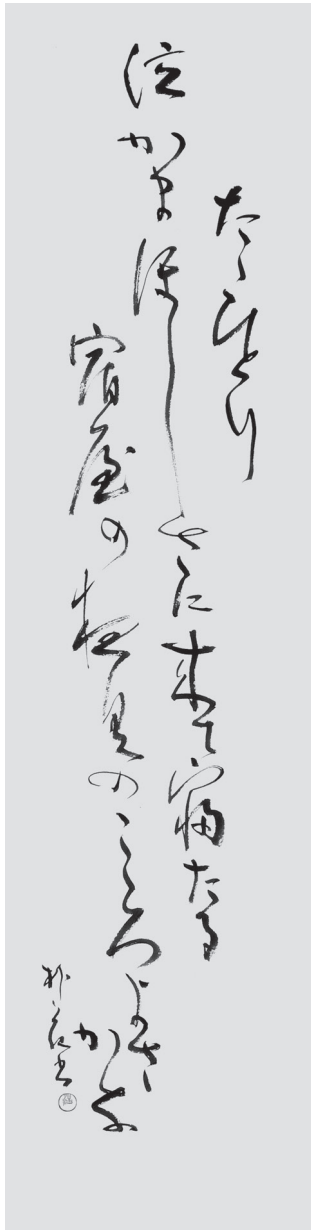
学び方

歌意：ひとりになって泣きたいだけだ。旅に出て宿で寝た。宿の夜具は心地よい。近代短歌です。今回は、変体仮名を使わず漢字も歌のまま書いてみました。歌中の、重複する仮名遣いについては、多少字形を変えて使っています。漢字の多くは、辞書を参考にして、なるべく作品に添う字面を選び、堅くならないよう試行してみました。

近代風といっても仮名作品として基本の構図、散らし方をはじめ、連綿による柔軟な流れの線の表出を心がけました。

作品づくりは、人それぞれの書風によるものです。しかし書く前に歌と向き合い、作者作品の時代背景を知った時、構成、文字の選び方など、いつもと違う創作表現がなされるかと思っています。

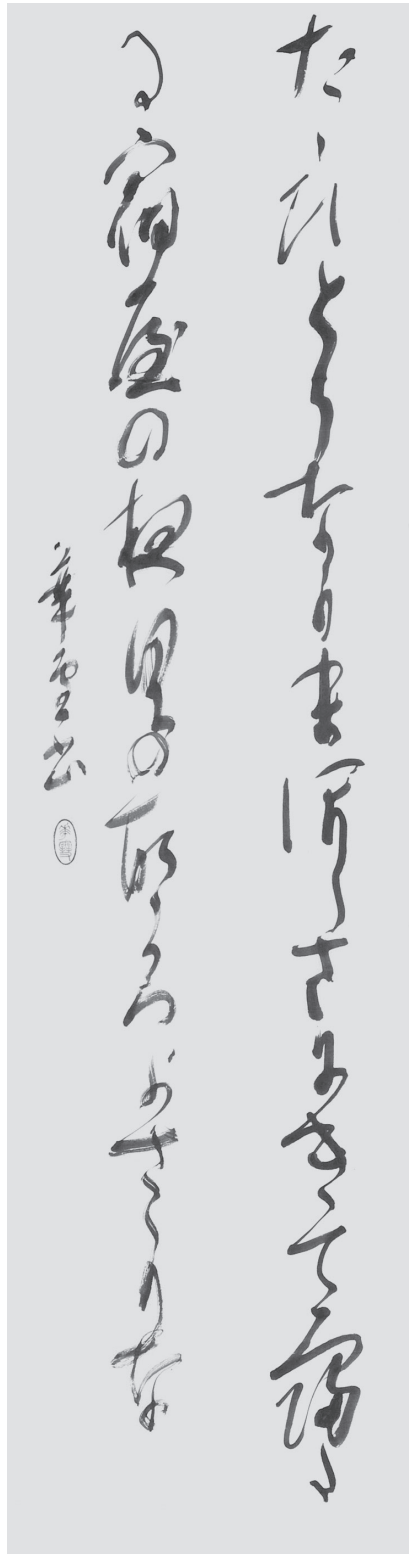
予告 (十一月二十二日締切) もみぢ葉をなにをしみけむ木の問よりもりくる月は今宵こそみれ (新古今和歌集 中務卿具平親王)



B

向山朴花先生書

たゝひとり泣か末ほしさに来て寝たる宿屋の夜具のこゝろよさか奈



A

平岡華雪先生書

ただひとり泣か末ほしさに来て寝たる宿屋の夜具のこゝろよさかな (石川啄木)

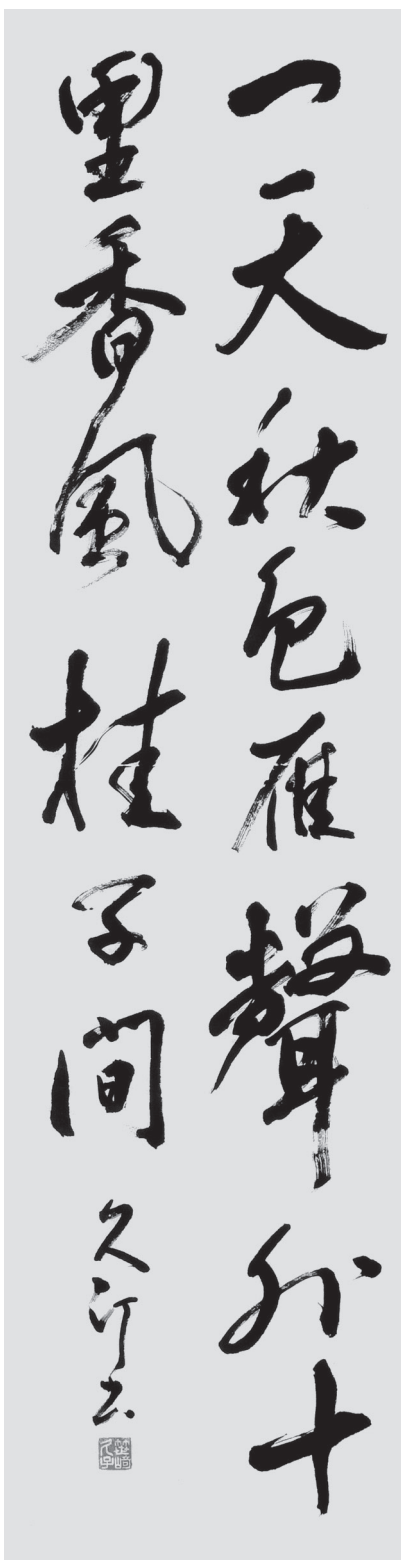
石川啄木という人
岩手県出身の明治の歌人、詩人。啄木の代表作『二握の砂』で、従来の形式にとらわれない「三分分かち書き」を採用し、身近な題材を取り上げて短歌の新たな表現の可能性を示した。又、自身の人生経験から湧き上がる感情を素直に詠み込み、恋愛、家族、ふるさとへの郷愁など、普遍的なテーマを歌に託している。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部 随意参考

笹崎久汀先生書

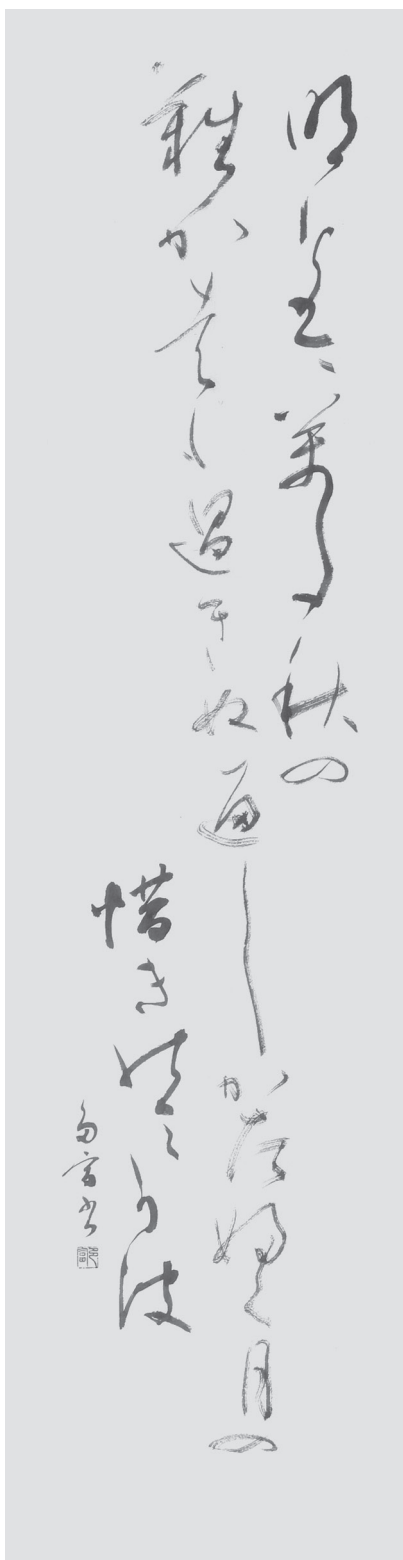
一天秋色雁聲外 十里香風桂子間（詠桂）
一天の秋色雁声の外、十里の香風桂子の間。



訳：空じゆうの秋げしきは雁の渡りゆくあたりに、遠方まで香りがただようのはもくせいのおくの中である。

森多富先生書

明けばまた秋のなかばも過ぎぬべしかたぶく月の惜きのみかは（藤原定家）
明介盤萬多秋の難か者も過ぎぬ遍しかた婦久月の惜き能三可波



歌意：この夜が明けると、秋も半分が過ぎてしまうことだろう。かたむいていく月が惜しいだけではない、そのことが惜しく感じられることだ。

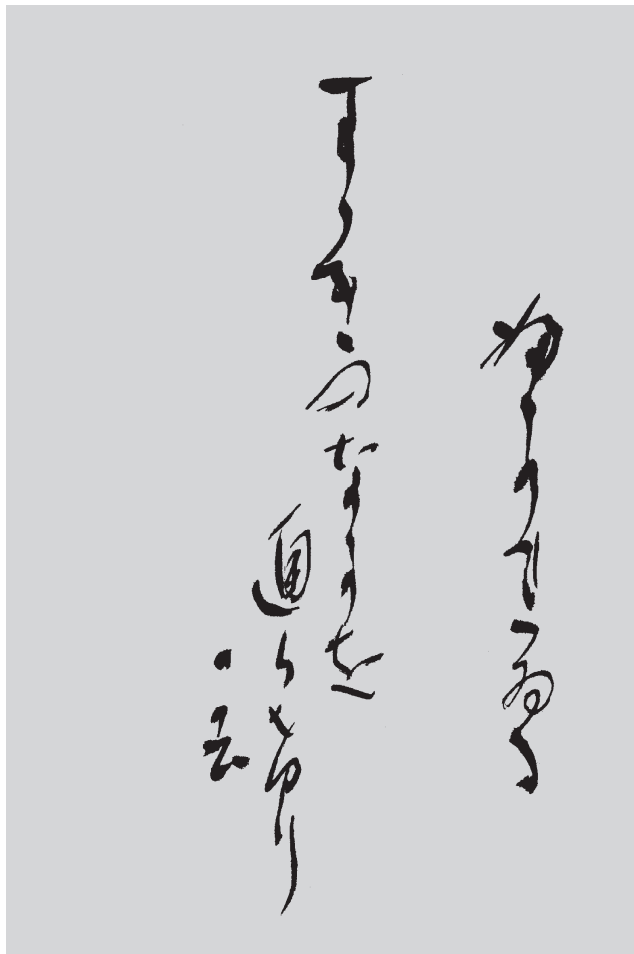
- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
- ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

かな部課題参考 (十月二十二日締切)

漢字部課題参考 (十月二十二日締切)

予告 (十一月二十二日締切)

山茶花の葉にさくやいて落ちしかな (月舟)



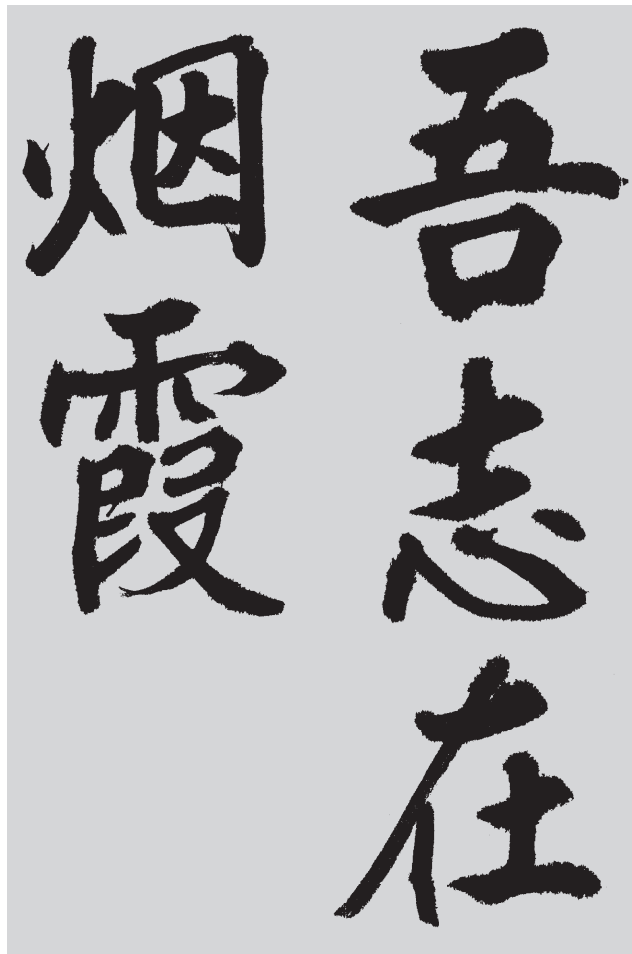
平岡華雪先生書

吹かれるるすすきの中を通りけり (星雲子)
 婦可連るすすきのな可を通り希り

「書くことに味わいを」
 左右の二群構成。「婦可連る」上五ボツ
 テリ感の中の直線味に注目。「る」細め
 の円曲線に効果。下五、二つの「り」の
 相違性に留意のこと。

予告 (十一月二十二日締切)

心遠地寛閑 (魏野)



平岡華雪先生書

吾が志は煙霞に在り (陳天錫)
 訳：吾が意志は山水の景色を楽しむことに
 ある。

〈一字内の意連〉
 一字の中で意連には留意のこと。特に、「志」
 の「心」、「在」の二・三画、「烟」の「火」の筆の
 つながりには注意のこと。

(1)

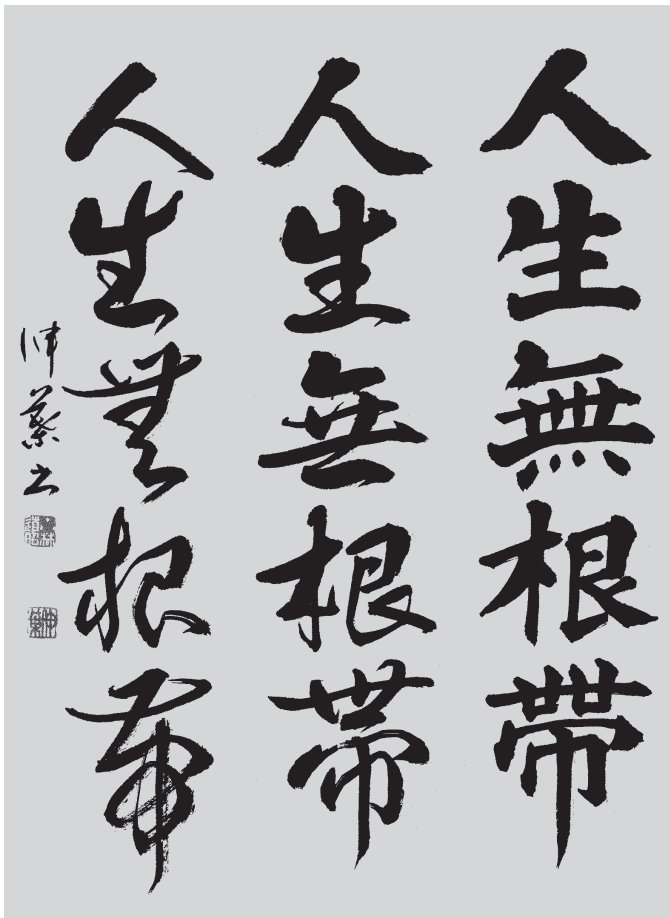
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (十月二十二日締切)

漢字かな交じりの書課題参考 (十月二十二日締切)

訳：人の命には木の根や果実の蒂たぐさのような、しっかりした拠り所がない。

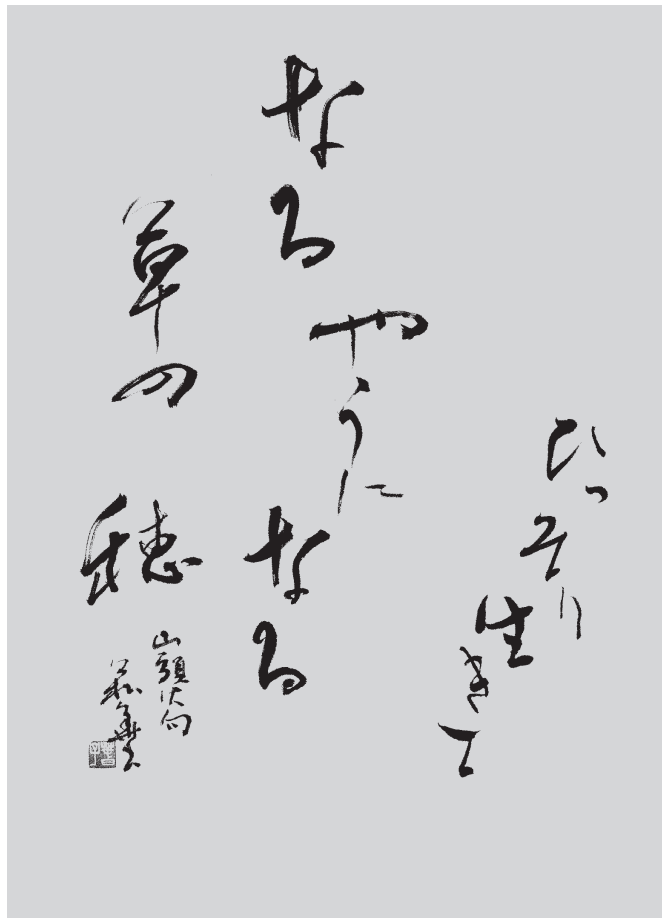


小林伸葉先生書

人生無根蒂 (陶淵明)

人生は根蒂こんてい無く、

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

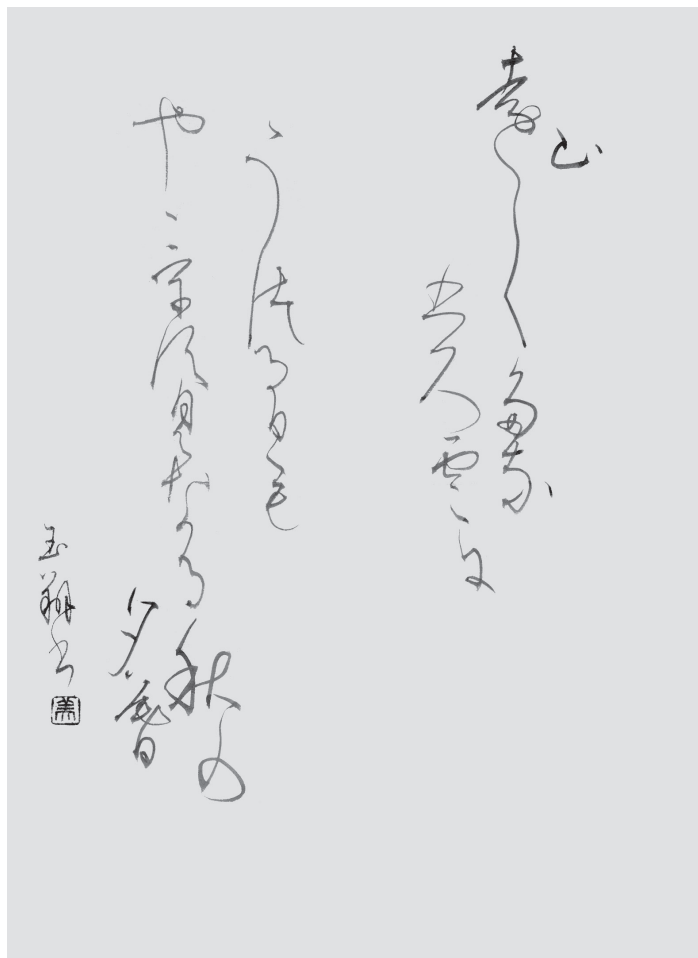


小暮菘華先生書

ひっそり生きてなるやうになる草の穂 (種田山頭火)

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

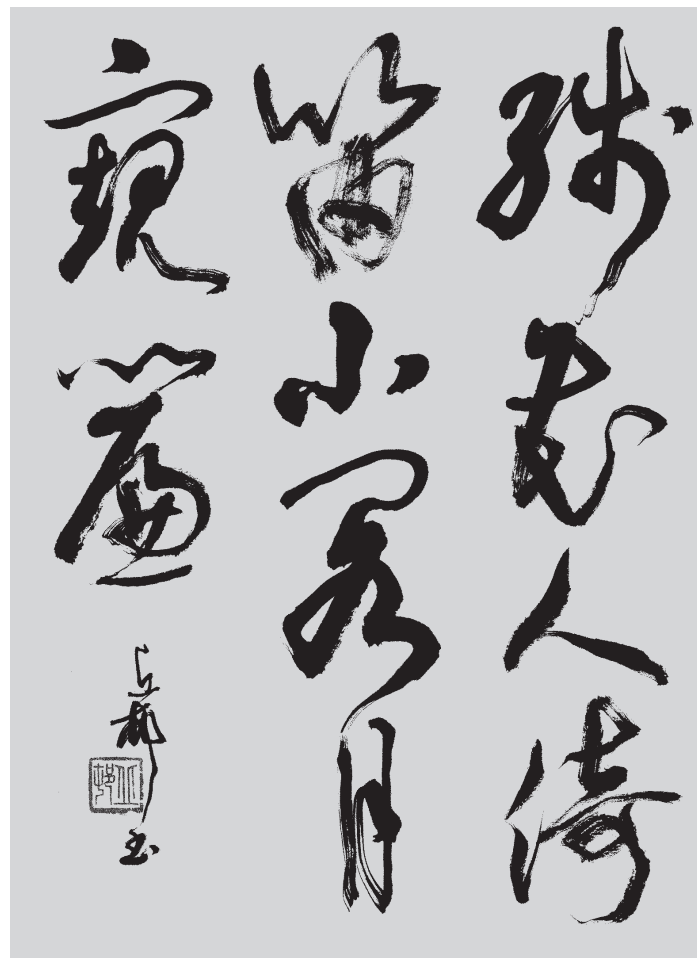


福田玉翔先生書

山遠くたなびく雲に映る日もやや薄くなる秋の夕暮（小沢蘆庵）
 山遠久多奈悲久雲う徒る日毛や、宇須具なる秋の夕暮

訳：散り残った花のそばでは人が笛を吹いているが、小さい楼閣には月が垂れた簾を窺い照している。

随意部参考



戸張丘邨先生書

残花人倚笛 小閣月窺簾（趙潛）
 残花は人笛に倚り、小閣月簾を窺う。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

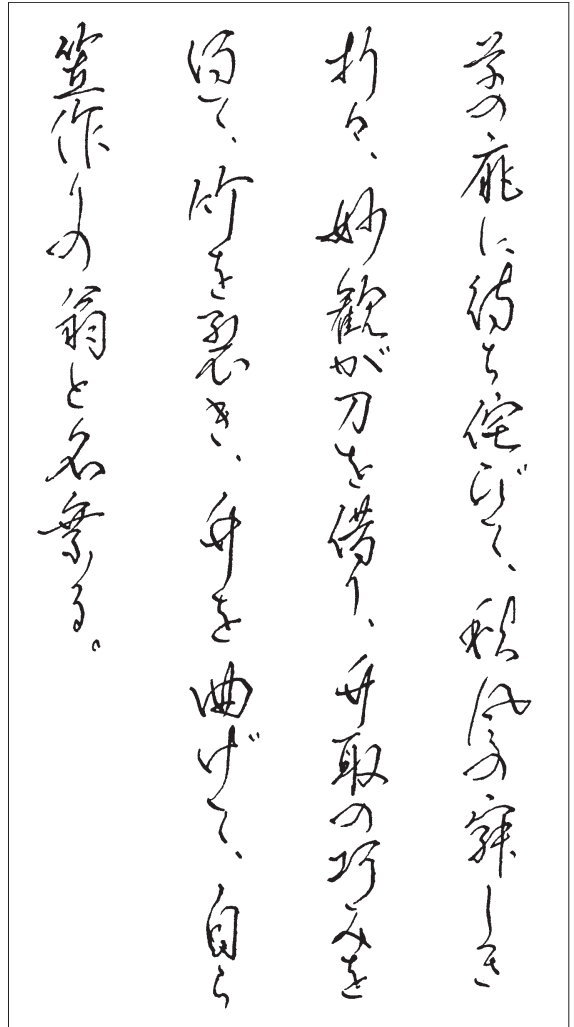
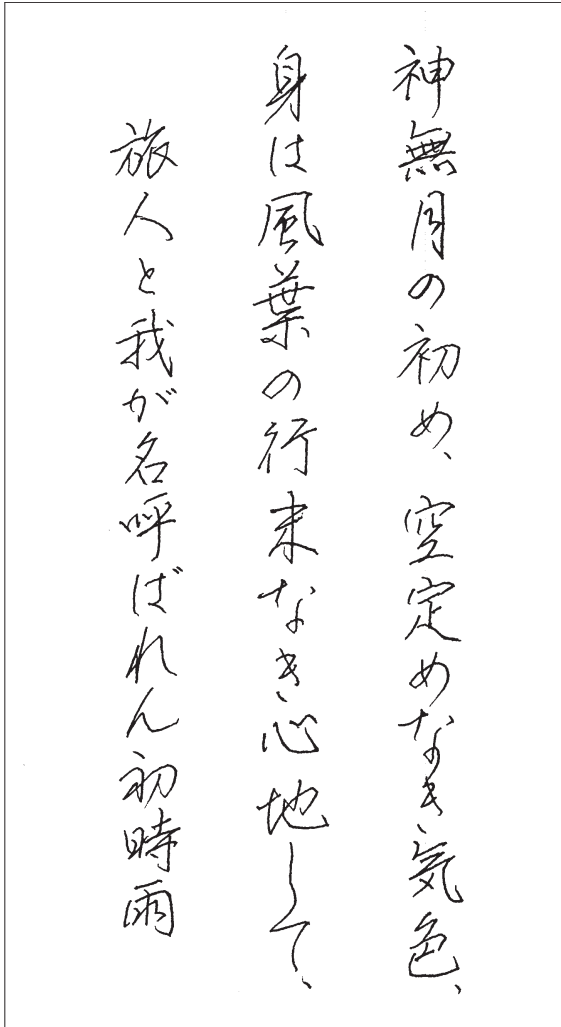
①出品部門（例：「漢字部」「かな部」） ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

稲畑 穂 先生書

本澤 優 香 先生書

課題 2 (初段格以下)

課題 1 (初段以上)



課題 1 (初段以上)

草の扉とばしに待ち詫びて、秋風の寂しき折々、妙観たつみが刀を借り、竹取たけとりの巧みを得て、竹を裂き、竹を曲げて、自ら笠作りの翁おきなと名乗る。

(松尾芭蕉『笠の記』)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段格以下)

神無月の初め、空定めなき気色、身は風葉の行末なき心地して、旅人と我が名呼ばれん初時雨。

(松尾芭蕉『笈の小文』)